

鎌倉楽しむ会

第18回 泉岳寺高輪・国立自然園歴史探訪の資料

平成29年11月22日

スタート 地下鉄泉岳寺駅 泉岳寺・高輪口 9:30

江戸城
〈 松の廊下 刃傷画 〉



忠臣蔵の解説

● 今から316年前の元禄14年(1701)3月14日、江戸城松の廊下での、播州(播磨国、現在の兵庫県)赤穂藩主浅野内匠頭が高家筆頭吉良上野介にきりつけ、即日切腹を命じられた。

このため、浅野家は断絶、赤穂藩士は浪人となった。翌元禄15年12月14日、赤穂浪士47人は、もと家老の大石内蔵助を首領に本所松坂町の吉良邸に討ち入りし、上野介の首を取った。討ち入りに参加し、最後まで残っていた46人は、翌元禄16年2月4日、切腹に処せられた。

● これらを総称して「赤穂事件」と呼んでいる。一方「忠臣蔵」というのは、この事件を素材としてつくられた芝居の題名であり、芝居によってさまざまな題名がつけられている。

そして、刃傷事件から47年目の寛延元年(1748)、「仮名手本忠臣蔵」が成立する。これは、竹田出雲らの脚本による浄瑠璃で、

大阪竹本座で初演された。これが大当たりで、すぐに歌舞伎にもなり、大阪の嵐三五郎座で上演され、翌年には江戸の森田座で上演された。

「仮名手本忠臣蔵」は、その後繰り返し上演され、その度に大当たりを取ることから興行の世界では「独参湯」(気付け薬)と称されることになる。そして赤穂事件も、「忠臣蔵」という呼び方のほうが定着することになる。

● 「仮名手本」というのは、寺子屋などで使われた教科書のこと、で、「仮名手本忠臣蔵」は、忠臣の教科書という意味である。

仮名は、いろは四七文字だから、討ち入りした浪士の数と同じで、「蔵」は忠臣の話が詰まった蔵という意味と、彼らの首領大石内蔵助の「内蔵」をかけた言葉である。

(山本博文著・これが本当の「忠臣蔵」より抜粋)

① 泉岳寺



●「それまでは ただの寺なり 泉岳寺」と川柳に詠まれた通り、赤穂浪士の討ち入り事件が起きるまでは、ひっそりとした曹洞宗の禅寺だったという。

慶長17年(1612)、3代将軍家光公の禅学の師だった宗関和尚が外神田に開いたのがはじめてで、寛永18年(1641)に火事にあいこの地に移ってきた。

泉岳寺は播州赤穂浅野家の菩提寺で、四十七士のうち46人の墓がある。元禄15年(1702)12月15日、本所の吉良邸を襲撃した大石内蔵助ら47人の浪士は門前で寺坂吉右衛門ただひとり逃がして、主君の墓前に討ち入りの首尾を報告した。

その後、自首した浪士たちは翌年2月4日、それぞれ預かり先の大名屋敷で切腹し、主君が眠るこの寺に並んで葬られた。

「石塔も無腰ではいぬ四十七」と川柳にもあるように、戒名にはいずれも「刃」や「剣」の文字が使われている。

浅野内匠頭の戒名には、この字がないため、「御主君は一人無刀の御石塔」とも詠まれている。

関係者への報告役として門前を逃れた足軽身分の寺坂吉右衛門は、但馬豊岡にいた大石夫人らに顛末を伝えたのち江戸へもどり自首したが不問に付された。寺坂の墓は南麻布の曹溪寺にあるが、慶応4年(1868)に建てられた供養塔が46基の傍らにある。また、討ち入り直前の元禄15年1月14日に自害した、萱野三平の供養塔とされるものもある。

その他には、高島易断でしられる明治の実業家・高島嘉右衛門の墓もある。

② 大石内蔵助外十六人忠烈の跡



● 大石たちが預けられていた細川邸は泉岳寺の裏手で、細川家の下屋敷と呼ばれ25,000坪あり、現在は高輪皇族邸と都営住宅、高松中学校になっている。

大石内蔵助外十六人が切腹した細川家の庭の一部が「忠烈の跡」として残されている。

参考のため、義士たちが預けられた場所を列記します。

- 細川越中守 高輪下屋敷
大石内蔵助以下 17名
- 松平隠岐守 三田中屋敷
大石主税以下 10名
- 毛利甲斐守 麻布上屋敷
岡嶋八十右衛門以下 10名
- 水野監物 三田中屋敷
間十次郎以下 9名

そして、泉岳寺の墓標は、このグループごとにまとまって祀られています。

③ 細川家のシイ

● 江戸時代、細川家下屋敷に植えられていた幹周8.1m高さ10mの都天然記念物になっているシイの巨樹です。



④ 歯科大学発祥の地

● 高山紀斎は米国留学で得た理想を基に、明治23年(1890)に、わが国最初の歯科医学学校として高山歯科医学院を設立した。これが、東京歯科大学として現在に至っている。

⑤ 薬王寺



● 薬王寺は元和7年(1621)に麻布狸穴に開創されたが、寛文元年(1661)に現在の地に移ってきた。

俳人の加賀千代女は、諸国漫遊の途中に薬王寺の井戸水が霊水であるとの噂を耳にし、ここに立ち寄りました。朝訪ねて来ると、井戸の釣瓶に朝顔が咲いているので、それをちぎって水を汲むのは忍びないと思い、そのままにして近所からもらい水をしたという。

そして、「朝顔に 釣瓶取られて もらい水」と詠まれたという。その井戸が現在も残っています。(港区観光協会HPより)

⑥ 魚籃寺



● 創建は承応元年(1652)で「魚籃観音」を本尊として安置する浄土宗のお寺です。

「魚籃観音」は左手に羽衣、右手に魚の入ったかご籃を持った約30cmの立像です。

漁業繁盛や海上保安などにご利益があるとされ、航海の安全と大漁を祈願する船舶関係者が多いという。

籃を持った姿から、江戸時代の川柳に「魚籃さま お使いからの 姿なり」「さすが土地 御手に魚籃と 芝魚」と詠まれている。

毎月18日に縁日が立ち、夏には朝顔市が開かれる。

⑦ 玉鳳寺



● 慶長4年(1599)に八丁堀に開創した曹洞宗の寺院。江戸城の拡張に伴い寛永12年(1635)にこの地に移ってきた。

山門左側に安置されている地蔵が「御化粧延命地蔵」(おしろい地蔵)と呼ばれるものです。

寺が八丁堀にあったころ、近くの橋のたもとで野ざらしになっていた地蔵を玉鳳寺の和尚が修復し、白粉を塗って寺に安置した。しばらくすると和尚の顔にあったあざがきれいに消えたので、「おしろい地蔵」とよばれるようになった。

以来、眼の患っている人は地蔵の目の部分に、脚が痛む人は地蔵の足におしろいを塗って祈願すれば、病気や怪我が治ると評判になったという。

ちなみに檀家総代は「高橋是清」の石碑が立っている。

⑧ 長松寺



● 国の史跡に指定されている「荻生おぎゅう徂そ徕らい」の墓がある。徂徕は寛文6年(1666)、館林藩の江戸藩邸で藩医の次男として生まれた。

成人して柳沢吉保に仕えたが、5代將軍綱吉公から赤穂事件の諮問を受けた時には、赤穂義士全員の切腹を進言した。

● 荻生徂徠の進言は、儒者^{じゆしや}として「浅野^{きんら}が吉良を殺そうとしたのであって、吉良が浅野を殺したわけではない。だから、吉良は浅野の仇^{かたき}ではない。浅野は一時の怒りにかられて吉良を殺そうとして果たせなかった。これは不義である。

赤穂浪士の行動は、主君^{じやし}の邪志を継いだものであって、義とはいいがたい」

つまり、赤穂浪士の行動は「浅野が切腹を命じられたことを逆恨^{さかうら}みしたものだ」というのです。

一方、徂徠は不遇の時代もあって、その時は、隣の豆腐屋から、おからを貰って飢えをしのいだが、出世してからは、そのお礼に毎月3斗の米を届けたという物語が残っている。

墓には「徂徠物先生之墓」となっているのは、荻生家は物部氏^{もののべし}の流れであるためという。

⑨ 大信寺



● 慶長16年(1611)八丁堀に浄土宗の寺院として創建。寛永12年(1631)現在の地に移ってきた。

江戸における三味線の始祖とされる石村近江(源左衛門)が寛永13年に葬られ、それから、累代^{るいだい}の墓所となった。

初代の石村近江は数々の名器を残した名匠で「浄本近江」と呼ばれた。石村家は代々「近江」の名を継いだが、とくに2代から5代まで名工とされ、その三味線はいずれも名器として珍重されているという。

⑩ 立行寺



● 「大久保寺」の通称で呼ばれる立行寺は、天下のご意見番として時代劇やテレビドラマでお馴染みの大久保彦左衛門が、寛永7年(1630)に創建した陣門流法華宗の寺院。はじめ麻布市兵衛町に開かれたが、彦左衛門の死後(寛永16年に79歳で没)、寛文8年(1668)にこの地に移ってきた。境内に鞘堂^{さやどう}付きの墓があり、寄り添うように魚屋^{いっしんたすけ}一心太助の墓もある。

彦左衛門は2,000石取の旗本で、小田原城主・大久保忠世の弟。神田駿河台に屋敷を構え、一心太助らの町方衆と交わり、多くの食客^{しよつきやく}を養ったという。戦国を生き抜いた古武士の典型として硬骨漢ぶりを発揮したというが、そうした逸話の多くは講談による脚色のようなものである。

「三河物語」を残したが、そこでは官僚組織化した幕府への憤^{いきどお}りと、時代に取り残された戦国武士の不平不満を吐露している。

⑪ 覚林寺



● 江戸時代から「白金の清^{せい}正^{しょう}公^{こう}さん」として親しまれてきた日蓮宗の寺院。日延上人が開山し、朝鮮の虎退治で知られる加藤清正公^{かとうきよまさ}の位牌^{いはい}が祀られています。

(次ページにつづく)

また、清正公の隨身仏（陣中の守り本尊）である「釈迦立像」も伝えられている。

日延上人は、清正公が朝鮮から連れ帰った王子で、はじめ安房の誕生寺の18代貫主となり、寛永8年（1631）に覚林寺を開いた。

この土地は、水仙の栽培に長じていた日延上人が幕府から水仙畑として拝領したものだという。

毎年5月4、5日に開かれる清正公大祭では、虎退治の清正公人形を飾り、菖蒲の葉が入ったお守り「勝守」を頒布する。清正公の武運にあやかって、持っている「勝負事に勝つ」と言われている。

⑫ 八芳園



● 江戸時代、天下のご意見番・大久保彦左衛門が晩年を過ごした屋敷があったという。

明治に入り実業家・渋沢喜作の所有になり、大正時代は、日立製作所などの基礎を築いた久原房之助翁の住まいとなり、変化に富んだ地形を利用した5万㎡の美しい庭園を整備した。戦後はこの景観を利用して「八芳園」として結婚式場などに発展し、今に至っている。

「八芳園」は、八方からの眺めがいつでも美しい庭園ということから、この名がついた庭園で、散策の道すがら立ち寄って心を和ませましょう。

⑬ 瑞聖寺



● 黄檗宗の禅寺で、寛文10年（1670）に創建された。江戸時代幕府は新来の宗旨を禁じていたが、黄檗宗は唯一の例外とされ、明僧隠元によって伝えられた。

インゲン豆の伝来で知られる明の禅僧隠元は招かれて渡来し、京都の宇治に黄檗山万福寺を開いたが、江戸ではその弟子木庵が、将軍家綱公の命を受けた青木甲斐守重兼の後援で瑞聖寺を建立した。

達磨大師を祖とする禅宗は、それまで臨済宗と曹洞宗が鎌倉時代から日本に入っていたが、黄檗宗の伝来により今日の三派鼎立のかたちができる。

瑞聖寺では、当時お経を明語（中国語）で唱えていたという。それは江戸の庶民にはモダンな新宗教として映ったという。

明の様式を色濃く残す大雄宝殿（本殿）は、江戸中期以後のものと推測され、国の重要文化財に指定されている。

⑭ 白金台どんぐり児童遊園

白金台どんぐり児童遊園

シロオネダイゴンダリドリウズエン
港区立児童遊園

目黒通りに面し、国立自然教育園に隣接する「白金台どんぐり児童遊園」は、港区最大の児童遊園。中央の緑の広場を囲むように多道が一周し、外側には国産の代からの木々がたくさん植えられている。また、水が流れる開放的な水遊び場。



● 国家公務員宿舎跡地を港区が、国から取得。平成18年（2006）白金台どんぐり児童遊園として開園した。面積は6,100平方メートルで港区最大の児童遊園です。目黒通りに面し、開放的な広場や築山があり、どんぐりのなる樹木もたくさん見られます。夏には水遊びができる「じゃぶじゃぶ池」は子供たちに大人気です。

⑮ 自然教育園



● 正式名は「国立科学博物館附属自然教育園」という約20万平方メートルの広大な敷地内には、自然の地形そのままの台地や湧水池、湿地などが保たれている。

ここは江戸時代、高松藩主松平隠岐守の下屋敷で、明治以降も海軍火薬庫や皇室林野局など、国有地として推移したために開発を免れ、全体が国の天然記念物となる自然が残っています。

昭和24年から自然教育園として一般公開されるようになった。

樹齢400～500年のスダシイの巨木群をはじめ森林には約580種の樹木が生息しているほか、南北朝時代の白金長者の館といわれる土塁が残っている。

入園料は65歳以上は無料ですが、年齢確認のできるものがが必要です。若い方は¥310円です。園内は飲食禁止です。



⑯ 東京都庭園美術館

● 昭和8年に建てた旧朝香宮邸を昭和58年から東京都の美術館として一般公開された。

20世紀初頭のアールデコ様式を今日に伝える貴重な建築物である。企画展が中心で、建物の特徴と庭園の美しさを調和させた展覧に腐心しているという。

戦後、昭和22年から25年まで吉田外相（のち首相）公邸としても使われていた。

第4水曜日は休館日で見学できません

大円寺



● 湯殿山の大海法印が、大日如来を本尊として祈願道場を開いたと伝わる天台宗の寺院。明和9年（1772）寺より出火し江戸市中三分の一を焼き尽くした。行人坂の火事として知られる。再建は禁止になったが幕末になり薩摩藩島津氏の菩提寺として再興された。

五百羅漢は、この大火の犠牲者供養のため当時作られたものと伝える。

江戸城裏鬼門にあたる為徳川家康公をモデルに大黒天を祀る。山手七福神の一つで参詣客が絶えないという。

墓地には西運の墓がある。西運は八百屋お七の恋人とされた吉三が出家して名乗った法名である。



雅叙園

● 創業者は細川力蔵で東京芝浦の自宅を改装し「芝浦雅叙園」として昭和3年（1828）に開業した。昭和6年には目黒の地に移って、芸術家たちに壁画、天井画、彫刻など館内を豪華に装飾したことで全国的に有名になっていた。

画像は館内の瀧の流れですが、見ごたえがあります。しばしの見学も楽しいと思います。

第18回「泉岳寺」の参考資料

1、吉良上野介邸宅の規模

土地 2,550 坪 本屋敷坪 388 坪 長屋 426 坪

(赤穂藩浅野家の屋敷 8,900 坪 (鉄砲洲＝明石町＝聖路加病院)

2、吉良邸へ討ち入りの様子

討ち入り開始時刻・・・午前4時過ぎ頃

表門 大石内蔵助 裏門 大石主税

表部隊 梯子で邸内に乗り込む “火火事だ！火事だ！”

長屋の使用人の出入り口を打ち付け開閉不能にする

弓の弦を切る、槍を切り折る

ロウソク番からロウソクを調達、

牧野長門守、本多孫太郎、土屋主税の屋敷では高提灯を多数灯す

殺し屋一不破数右衛門5人、堀部安兵衛は数人を殺傷

3、吉良上野介の首を上げる・・・午前5時半ころ

4、損 害

赤穂義士 捻挫1名、太腿に重症1名

吉良側 討死17名、負傷19名、逃亡12名

5、泉岳寺までの道のり

上野介の首は・小袖の袖に包み槍の柄にくくりつけて行進。

吉良上野介邸～～回向院～～両国橋～～一つ目通り南下～～ちくま味噌で甘酒～～

～永代橋～～旧赤穂藩邸～～木挽町～～汐留橋～～芝泉岳寺（午前8時過ぎ）

6、享 年 浅野内匠頭 35 歳 吉良上野介 62 歳

7、参 考：^{かじかわよそへいえ}梶川与惣兵衛、（殿中で内匠頭を抑える）

^{たむらうきょうだゆう}田村右京太夫、（浅野内匠頭が切腹の場所）

^{せんごくほうきのかみ}大目付・仙石伯耆守（吉田忠左衛門・富森助右衛門が報告）

8、寺坂吉右衛門、萱野三平の供養塔

以上

図10 泉岳寺赤穂義士の墓所

